

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503130		
法人名	(株)アサヒライフコーポレーション		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	福山市山手町1395-1		
自己評価作成日	2023/1/19	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和5年3月29日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧山陽道に面し周囲には田園が広がり、穏やかな風景と自然に恵まれた環境の中に「グループホーム憩」があります。近隣には、保育所や小、中学校、公民館などがあり、地域、町内行事を通じて地域の人々との交流を図り、その関りを大切に育んでいます。職員は「心の繋がり」を大切にしながら、入居者様がその人らしい笑顔と尊厳に満ちた日々を営んで頂けるよう、一人ひとりに応じた医療体制を整え、憩での生活が安心して穏やかなものになるよう努めています。同じ敷地内にある小規模多機能ホーム風花の皆さんとともに、地域の方たちの交流の場、情報交換や発信の場になれるよう頑張っています

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念「心のつながり大切に いつも一緒にゆったりと 笑顔あふれる家族愛」を基に、日々利用者に寄り添い、楽しく笑って過ごすことができる生活の支援に努めている。声かけや会話から利用者の思いや意向を汲み取り、個々の思いに添った対応に取り組んでいる。また、利用者と家族の時間も大切にとらえ、早期に居室での面会を再開させて、関係継続の支援に努めている。事業所ではパズルや壁紙作り、皆で合唱する合同誕生日会など様々なレクリエーション活動を工夫し、利用者の楽しみと認知・身体の機能維持へとつなげている。事業所では職員の意見を積極的に反映させて、職員の意欲向上を図り、やりがいを持って楽しく働ける職場環境作りに取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念</b> 3471503130					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のサービスを基本とし、理念を目標にケアの実践に努めている。スタッフルームには見える場所に理念を掲示し、より良いケアの実践に繋げている。	理念をスタッフルームや玄関に掲示し、共有している。毎月のミーティングでは理念に沿って話し合い、日々の振り返りを行っている。管理者は気になることがあれば、職員に声かけを行い、充実したケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事についてはコロナウィルスの影響もあり、利用者との関りは少なく、中止しているが、地域の溝掃除や行事等があれば参加している。	事業所は町内会に加入し、職員が町内清掃活動に参加している。コロナ禍の為、地域とのつきあいは困難であったが、散歩の時などに近隣住民と出会えば挨拶を交わして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルスの影響で運営推進会議は実施しておらず、町内の役員や関係者には定期的に資料を配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での地域交流やサービスの質の向上に向けた話し合いは出来ていないが、定期的に職員同士でミーティングを行い、広い視野をもって向上していけるように話し合いを行っている。	コロナ禍の為、運営推進会議の開催は困難であった。5月に事業所の状況・活動報告の資料を作成し、町内の役員と地域包括支援センターに手渡した。今後の方針として運営推進会議を開催するための準備を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福山市の生活福祉課、介護保険課、保健所との連携を図り、生活保護受給者を含む入居者様に必要な支援やケアが行えるように努めている	市とは管理者と主任が電話で困り事や相談、介護保険の手続きなどを行い連携を図っている。福祉課とは生活保護受給者の面会などで、地域包括とは認知症カフェの話や空室状況の確認などを行って協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の意思、自由を尊重したケアを基本とし、声かけ一つで身体拘束となりうる事を念頭に置きながら業務を遂行するように努めている。	管理者が本社の委員会に参加している。事業所でも勉強会を開催し、職員がレポート提出することで、理解度を把握している。外に出たい利用者には納得するまで一緒に歩き、声かけや会話で気分転換を行い、利用者の自由な暮らしを支援している。管理者は気づきがあれば日々職員と話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な身体拘束やプライバシー保護などの勉強会を開催すると共に、介護の振り返りができる自己チェックリストを活用することで、職員の更なるスキルアップにつながることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の自由、尊厳を尊重し、言葉一つ拘束になるということを職員が意識、理解をした上で業務にあたるようにしている。虐待をテーマとした研修にも参加させて頂き、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の利用者に添った対応を進める為に、他の事業所や家族、医療従事者と連携を図り、貢献人制度を利用するとともに職員にも説明し、実践を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームで生活するうえで必要な書類、条件を説明し、同意を得たうえで、ご家族様の要望や利用者様の不安な点に対して耳を傾け、解決策を提示した上で安心して入居ができるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族様からの意見は申し送りノートに記入し、全職員が共有したうえで、早急に解決できるように努めている。必要に応じて家族と話を交えお互いにとって良い方向に繋げられるように努めている。	利用者からは日常生活の中で、食べ物や人間関係などへの意見や要望があり、職員間で情報共有し、反映させている。家族からは面会や電話で意見や要望を聴き、散髪や差入れなどに柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見に対しては率直に受け入れ、主任、管理者クラスのミーティングで議題としてあげその意見の必要性に対して会議をしたうえで反映できるように取り組んでいる。	ミーティングや日常業務内などで職員の意見を聴き、ケアや行事、物品の検討などに活かしている。管理者は職員の意見を聴き反映させるよう取り組むことで、職員のストレス軽減や意欲向上を図り、楽しく働ける職場環境づくりに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(管理者、施設長)で構成される定例会議を毎月開催し、各事業所の運営に関わる問題を議題とし話し合いを行い、職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の奨励と共に、勉強会の開催を企画している。個別には管理者・主任が指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、外部との交流やイベントは自粛している。勉強会や研修には参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や関係者から情報収集を行い、職員が事前に情報を共有することで入居に備えた準備をしている。又できる限り、入居されるまでに馴染みの関係が気付けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に対する要望や施設に対する要望や期待、不安を入居前に事前に聞いたうえで施設、医療機関、家族と連携を図り、全体で入居者様を支えていくという目標を掲げ、信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の状況を事前によく理解した上で、入居後の生活について医療機関、家族、施設職員と相談しながら適切なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が楽しみながら役割や作業(洗濯物を畳む 干す 食器拭き)などに参加して頂けるような声かけを行い、参加された方に対して感謝の気持ちを都度伝え、お互い支えあいながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪の際には直接職員が施設内での様子、イベント時の様子などをお伝えし、遠方のご家族様に対しては都度電話で様子を伝えるように努めている。また気軽に来訪して頂けるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き、家族、関係者の協力を仰ぎ、馴染みの物、場所、人との関係の維持に努めている。又気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを大切にしている。	コロナ禍の状況に応じて面会をしている。現在は面会を随時居室で行い、孫や親戚などの来訪もあり、利用者と家族の時間を大切にしている。職員は利用者毎にアルバムを作成し、家族の来訪時に日頃の様子を伝えて関係継続の支援に努めている。個人の携帯電話で話をする人、妹から架電がある人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が寄り添い、また程良い距離間を維持しながら入居者同士の程よい関係を保てるように職員は配慮している。またトラブルの際には職員が間に入り、関係が崩れないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族や本人への支援を継続している。施設の特性上、退去後、入院先で亡くられる場合が多く、最後のお別れまで可能な場合のみさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望を汲み取り、ご家族様とも相談を交えながら努めている。発語や難聴などの難しい方に対しては言語、非言語を活用しながら本人の気持ちを汲み取れるように対応を心掛けている。	日常生活の中で利用者の隣に寄り添って話をしたり、夜勤帯のケア時など1対1の会話から思いや意向を把握し、情報を職員間で共有している。困難な場合は仕草や表情から汲み取り、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後に可能な限り、本人、家族、関係者から情報を収集している。本人や家族から思い出話や懐かしい事を伺うことでご本人様のニーズに繋げ、本人の思いに寄り添った支援に活かせられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、出来ないこと、やりたいこと、やりたくないこと、得意なこと、不得意なこと、好きなこと、嫌いなことを把握した上で表情や体動を観察し、ニーズに応じたケアが出来、思いに寄り添った支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関の意向を踏まえたうえで作成したサービス計画書をもとに家族、介護職員、看護職員などで検討を重ね、問題の解決を図り、ケアの質の向上に努めている。本人の状態によって計画は随時変更している。	担当職員のアセスメントを基に、計画作成者と話し合っ方針を示し、介護計画を作成している。カンファレンスを毎月行い、モニタリングは3ヶ月、見直しは6ヶ月としているが、状態が変化した場合は柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに個別の介護日誌、健康管理表に細かく記録している。それを踏まえて日々の申し送り、ミーティングなどで検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの「思い」に寄り添った支援が出来るよう柔軟な発想と「心」で対応できるように一人ひとりが意見をもち寄り日々奮闘している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの影響で地域との関りは減っているが、以前のように地域のイベント(移動図書、盆踊り、跳ね踊り)を通じて楽しめる幅広い支援を取り戻していけるように努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望を把握した上で、適切な医療の提供を受けられるよう、提案、支援している。かかりつけ医や主治医との連携を図ることでご本人、ご家族様の要望に応じ、医療機関の紹介、連携も行っている。	入居時に事業所での対応を説明し、希望のかかりつけ医となっている。協力医の往診が月2回あり、皮膚科など他科の往診も必要時に受けられる。受診は職員が同行し、希望あれば家族も同行している。夜間緊急時は看護職員や病院に連絡し、指示に従っている。歯科の往診や衛生士の口腔ケアは必要時に受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員は常に連絡を密とし必要に応じて迅速に医療機関への受診、入院対応ができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に施設側が医療機関とご家族様のパイプ役となり必要に応じて入退院の際には職員が同行し、家族、病院をサポートしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に基本的な方針やリスクを想定した対応などの説明を行い、同意を得た上でサービスの提供開始となる。入居者様の状況変化に応じて都度関係職員の意見を用いながら施設で出来ること、出来ないことを見極め、ご家族、本人様に理解して頂けるように努めている。	入居時に事業所のできる事・できない事の説明をしている。状態の変化に応じて医師から説明を行い、家族との話し合いから意向を把握している。重度化した場合は随時面会が出来るなど家族の意向を尊重した対応をしている。職員は家族や医師・看護師と連携を図りながら、苦痛の緩和・清潔の保持など事業所のできる最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要な時に直ぐ手に取れるように緊急時のマニュアルを各部署に配布。又上司による緊急時の対応の説明をしている。又年に1~2回の救命訓練やミーティングの中で管理職、看護職の指導の下、実践できるように準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福山市の合同防災訓練に参加したり、施設内での訓練には入居者様も参加し実施している。	6月に利用者も参加して避難訓練を実施し、9月は福山市の合同防災訓練に参加した。火災時は園庭やベランダに、水害時は2階へと垂直避難するよう職員全体で確認している。	災害に備えて、備蓄の準備と防災対策としてBCP(業務継続計画)の作成の検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は「親しみやすい声掛け、態度」と「馴れ慣れしい声かけや態度」の区別を理解し、入居者様の尊厳を大切にプライバシーに配慮した声かけが出来るように努めている。	利用者の気持ちを大切に受け止め、ケアに取り組んでいる。リビングでの申し送りは小声で行い、個人が特定ができないように配慮している。排泄や入浴時などはドアを閉める、衝立を使用するなど羞恥心やプライバシーの保護に努めている。同性介護にも対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が遠慮や職員に対して気を遣い、自分の思いや希望が言えないことが無いように明るい雰囲気の中で個々のペースに合わせて働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがいろんな思いと自分のペースでゆったりと過ごして頂けるよう、施設職員は創意工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナウィルスの影響で以前までボランティアカットを活用していたが、現在は利用中止をしている。定期的に散髪免許を持った職員がカットを行ったり、髪を染めたりすることで喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好物、嚥下状態に合わせ、普通食、刻み食、ムース食、ペースト食、トロミを用いり、美味しく楽しく食事をして頂いている	朝食は職員が手作りし、昼夜は業者の食材を利用し提供している。食事時には利用者に献立の説明を行う働きかけをしている。行事食として、雑祭りにはお寿司を、クリスマスにはケーキを、要望があればおはぎを作るなどして食事を楽しむ支援をしている。利用者はお盆拭き、野菜の下ごしらえ、簡単な昼食作りなど出来る事を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、看護師、家族と相談しながら食事の内容や水分の質、トロミ具合などを検討し無理なく安全に召し上がって頂けるように工夫している。食器も色や形、大きさ、深さによって使い分けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	家族に説明し同意を得た上で歯科医師、歯科衛生士の指導のもと、ひとりひとりの状態に合わせて、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで安心、安全に排泄ができるように介助を統一し、立位や車椅子からの移乗が困難な場合でも可動式の手すりを使用することでトイレで排泄が出来るようにしている。居室には必要に応じてポータブルトイレを設置している。	トイレでの排泄を基本に、仕草やタイミングを見計らって声かけを行い、立位が保持できる人はトイレへ誘導している。パッド類は本人の状態に合わせて検討している。介護計画に歩行や下肢の運動などを取り入れ排泄の自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼りすぎないように医師・看護時の指示のもと職員で話し合い、運動や食物繊維、乳製品など便秘に良いと言われている食品を取り入れるなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の状態や希望を尊重し、ゆっくりくつろげるように予定を組んでいる。入浴中の事故やトラブルの予防の対応の為、入浴時間帯は職員が3人体制を厳守している。	3日毎に入浴の支援を行い、本人の意向に応じて浴槽に浸かっている。入浴中は歌や会話を楽しみ、1人でゆっくりと浴槽に浸かる人もいる。入浴時は全身状態の観察と軟膏塗布などのケアを行っている。入浴を嫌がる人には声かけを工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれに居心地の良い場所があり、食後は居室やソファで過ごされる方も多し。職員は急変や転倒にすぐ対応できるように都度巡回を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの服薬の指示、指示書は必ず書面で確認している。目的や方法に応じて看護師、医師の指示のもと保管場所や取扱方法を決め、職員同士で共有し、確認、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前、午後の定時のおやつ以外にも好みの物や嚙下状態の悪い方でも食べられるようなおやつを準備している。個別に散歩や買い物、YouTubeなどを利用し昔懐かしい映像を見たり楽しんで頂けるように創意工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	駐車場やベランダでの日向ぼっこ、近隣への散歩や買い物、外食、季節に応じて花見、家族との外出などの頻度は個人差もあるが、外出の支援は積極的に行っている。	天気の良い日には散歩に出かけて山の桜を眺め楽しんでいる。近所の公園まで散歩したり、庭先での花の観賞やベランダでの日光浴により戸外に出る支援をしている。受診の為外出する人、家族と外出・外泊、墓参りをする人もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関心のない方、お金のことで不安になられる方も居られるため対応には配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り柔軟に対応している。家族関係や関係先の事情も把握した上で混乱、トラブルにならないよう円滑にやり取りが継続できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	脱衣場やトイレなどの使用頻度の高い共有空間には介助するうえでプライバシーが確保できるようにカーテンやパーテーションを設置し、プライバシーが守れるように配慮している。又季節ごとに飾りつけを入居者様と一緒にを行い、居心地の良い空間作りに努めている。	整理整頓された広いリビングは、加湿器・空気清浄機を設置し、居心地よく過ごせる配慮をしている。季節を感じられるようにと利用者と職員で壁紙を毎月作成し飾っている。窓からは移ろいゆく山や田畑などを見渡すことができる。居室からリビングまでの歩行時に、ひと休み出来るゆったりとしたソファが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様ひとりひとりが快適にくつろいで過ごせる居場所、転倒や転落の危険を配慮したレイアウトを用い、安全、安心に移動が出来るような空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力のもと、思い出のある品や使い慣れたもの、思い出にまつわる何かをお聞きした上で施設へ持ち込み、居心地の良い空間が作れるように配慮している。又思い出の品をもとに職員との関りがふえ、会話が弾んでいる。	居室にはベッドとクローゼット、鏡や洗面所が備え付けられ、利用者は思い出の品々や馴染みの物を持ち込んでいる。安全面を考慮しながら家と同じような雰囲気でも過ごせるように職員と一緒にレイアウトを決めている。タンスの棚にラベリングすることで、自身で居室を管理できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙などを活用し、視覚的な案内、安全マット、足元センサー、手すり、ポータブルトイレ、歩行器、車椅子など一人ひとりの身体状況に合わせ、適切な見守りと介助をすることで自立支援に繋げている。		